

## 旧リゾ鳴尾浜跡地の活用方針が決定

経営破綻した西宮市の第三セクターが運営していた旧リゾ鳴尾浜跡地エリアですが、再整備に向けて事業者が選定されました。

令和8年7月に実施協定締結、9月から旧リゾ鳴尾浜施設の解体工事着手、令和10年4月から一部供用開始、夏頃に全面供用開始を予定しています。

市は、初期整備費として2億7300万円、事業者提案の収益施設等を除く公園エリアの指定管理料として、19年間の指定管理料として、年間5400万円を事業者に支払う予定です。収益施設の設置許可使用料として月額約64万円(年間約770万円)が市の収入となるため、合算して年間約4630万円の歳出となります。\*初期整備費を除く

リトリートをコンセプトとして、温泉・スパ施設、飲食・交

流施設、ペットサービス施設などの施設機能が提案されています。公園エリアには、イベント利用が可能な多目的空間、遊具広場、足湯等が整備される予定です。施設と公園全体を一つの空間として一体的に捉えた管理運営を目指しています。



## AI時代を生きる力を、中学校から ～市立中学校での生成AI活用と情報リテラシー教育～

現行の学習指導要領はAIの存在を前提として、社会の変化が加速・複雑化するこれからの時代に必要な資質・能力の育成を目指している。育成に向けて適切に生成AIと向き合い、利活用できるよう、学校現場の視点から基本的な方針及び実務のポイントを示すことが求められる。

文部科学省の「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」では生成AIが社会生活に組み込まれていくことを念頭に置き、情報活用能力の育成を一層充実させる必要があるとされている。

**【Q】**  
ガイドラインを踏まえて市立中学校における取組および利活用の現状は。

**【A】**  
生成AIについては、学習活動で用いることを通じて生徒の思考力・判断力・表現力の育成が期待できるなど、生徒が生成AIを利活用するための知識を習得することが大切である。

ガイドラインには、「生徒の学習場面での利活用に当たっては、生成AIと人間との関係を対立的に捉えたり、必要以上に不安に思ったりするのではなく、生成AIは使い方によって人間の可能性を広げてくれる有用な道具にもなり得ることを理解した上で、発達の段階や情報活用能力の育成状況に十分留意しつつ、リスクや懸念点に対策を講じた上で利活用を

検討すべきである。」と書かれている。

まずは中学校3校にて、生徒が文章の推敲などに用いるほか、著作権に関する注意点などの情報モラル・リテラシー教育も含めて検証に取り組んでいる。検証やその後の展開を通じて、各中学校での生成AIの活用状況を把握することにも繋げていく。

また、本市独自の生成AI利活用ガイドラインを令和8年度の早い時期に策定することを検討しており、令和8年度のしかるべき時期から、生徒による利活用に本格的に取り組みたい。

**【Q】**  
利活用の前提となる情報活用能力・リテラシーの育成にどのように取り組んでいるのか。



**【A】**  
現在、各種授業で生成AIを用いるに際して、必要な注意事項を体系的に確立して伝えられている状況ではない。今後策定予定の本市独自のガイドラインの中で必要事項を整理し、知識の不足による悪影響を防げるよう、各校の指導に資する参考資料として完成させたい。

市政に関するご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。XやInstagramへのコメント・メッセージは確認できない場合があります。返信が必要な場合はメール・SMS(携帯電話のショートメール)・お電話にてご連絡ください。

お問い合わせ・連絡先 渡辺けんじろう事務所

- 〒662-0854 西宮市櫛塚町 2-15-401
- 電話：070-2450-4296
- メール：wataken116@gmail.com

わたなべけんじろう



公式ライン (@020mgmqb)

